

Vol.72(改訂版)

さい帯血情報



After Treatment with her Own Cord Blood, Toddler is Able to Speak <自己さい帯血の投与により、言葉が話せるようになった>

～米国さい帯血情報サイト Parent's Guide からのレポート～

さい帯血保管に関して米国で広く知られているウェブサイト「Parent's Guide to Cord Blood」に、次のような治療に関する効果の事例が報じられています。



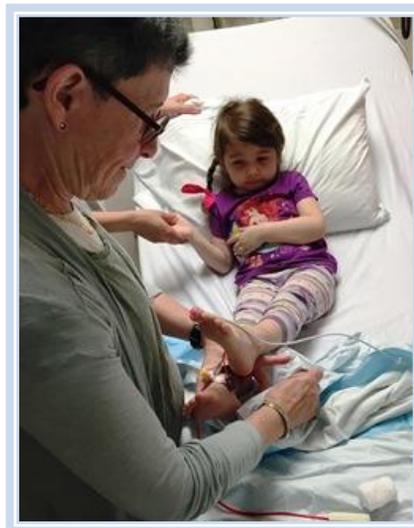
イザベラとマシュー

3歳半の少女イザベラは失語症という運動性発話障害でした。これは脳の障害によって唇や舌を動かすことが困難となり、発声や発語ができなくなるものです。兄のマシューも幼少のころ同じ失語症と診断されていました。

イザベラの両親は、デューク大学で失語症に対するさい帯血輸注が行われ、実績も出ていることを知り、民間バンクでのさい帯血の保管を決めました。その後、一家はデューク大学へ行き、イザベラのさい帯血輸注を受けました。輸注は10分もかからないものでした。処置後の数時間は点滴を受け、数日後には帰宅しました。さい帯血輸注を受けてから3週間もしないうちに、イザベラの発話能力は著しく向上しました。

両親は次のように話しています。「イザベラはこれまで兄をマシューと呼ぶことができませんでした。何度も言おうとしていましたが、あの子にとっては一文字一文字の発音が難しく、私たちはそれを聞き取れませんでした。それが今ではマシューとはっきり言うのです。先日は『わたしはマシューとおうちにいたい!』とまで言っていました。」

さい帯血を輸注する前までは、一日に1～2語ほどしか話せず、それも両親が聞き取れないことで、イザベラはいつも腹を立てていました。それが今では新しい言葉を話し、両親の言葉をまねて話すまでになりました。両親はその印象を次のように語っています。「あの子はずっと頭が良かった。ただ発話能力が抑えられていたために、したいことができなかつたんです。」



イザベラにさい帯血を投与する
カルツバーク教授



Parent's Guide
to Cord Blood
FOUNDATION®

Parent's Guide to Cord Blood
NEWSより
<http://parentsguidecordblood.org/en>